

豊明市議会議長 殿

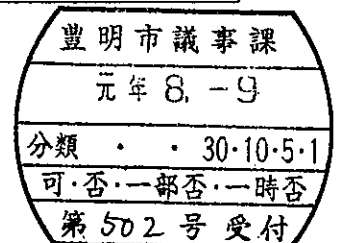
行政等視察報告書

議員名 itou ひろし

30年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

| 年 月 日 | 視察先 | 視察項目及び成果等 |
|-----------|--------|---------------------|
| 令和元年7月30日 | 岡山県高梁市 | 豪雨復興計画について |
| 7月31日 | 広島県呉市 | 国民健康保険事業の医療費適正化について |

(注) 別紙添付も可能とします。
(注) 本報告書は5年間公開します。



令和元年8月7日

会派視察報告書

日時 令和元年7月30日・31日

場所 岡山県高梁市・広島県呉市

1 日目

目的： 西日本豪雨により、河川の氾濫などによる浸水被害や、山腹の崩壊、土石流災害などの大災害による復興計画等の視察

日時： 令和元年 7月30日 13:30～15:30

場所： 岡山県高梁市 市役所 第2委員会室

内容：

2018年7月5日より西日本豪雨により、河川の氾濫などによる浸水被害や、山腹の崩壊、土石流災害などの大災害となり570戸が大きな被害を受けました。この災害による復旧・復興の推進を図られた復興計画策定や将来に向けたビジョンについての取り組みをお聞きし、本市やこちらの地域におけるゲリラ豪雨や集中豪雨対策を計画する上で、お役に立てるようになるため、3会派にて視察をしてまいりました。

岡山県の中西部に位置し、県下三大河川の1つ高梁川が中央部を南北に貫流し、両側に吉備高原が東西に広がっており主に、低地部と高原部に至る傾斜部及び高原部からなり547km²です。人口は現在約30374人で減少傾向です。

市内に小学校が15校、中学校6校、高校4校、大学が2校あり、駅前図書館、歴史美術館もあり若い世代が集まり、国指定重要文化財の備中松山城やノスタルジックな街並みの吹屋地区もあり、年間20万人の観光客もあり、ピオネぶどうの生産は日本一なのでお土産にも有名です。また、CCC「カルチャ・インフラを、つくっていくカンパニー。」事業も参画している。

質問内容：

- ①当時の雨量予測とその際の「避難情報（特に弱者への対応）」について
- ②避難所運営での問題と課題について
 - ・飲料水や食料確保の実態
 - ・ペット避難への対応
- ③計画策定においての市民、自治会、議会の意見集約について
- ④計画予算142億円の進捗状況と重点強化とするポイントについて

⑤災害後の防災訓練の見直しについて

以上の質問等を中心に分かりやすく回答して頂きました。

まとめ

2019年7月5日21時頃に川の水位が8mを超え市役所の防災課より避難勧告を出しました。その際、民生委員の方を中心に、町内の方が地域を回って避難勧告をお知らせしていたようです。その努力もあり、29ヶ所の避難所で延べ2540名の方を受け入れることができたようです。しかし、避難された方が人口の10%を下回る結果というのは、適正なのかをもう少し調べていけたらと感じました。

インフラ面では、7月18日まで7071戸が断水により飲料水不足に苦慮しました。また、生活ゴミの処理は年末までかかったようなので、その対策も必要かと感じました。災害ゴミは約5か月後の12月24日から片付けができるようになったそうですが、その際のごみ置き場等も考慮しておかなければならないとも感じました。

今回高梁市では、電気は断線することなく7月、8月の気温が高い時期の熱中症などの二次災害は防げたかと思えます。

ペットについて

高梁市では、ペットの同行避難場所などの指定をしていなかったようで、29ヶ所の避難場所の一角に同行避難したようです。

高梁市では、犬の登録件数が2500頭おりペットの同行避難場所が指定されてなかったのも、他の避難者に気遣った結果ペット所有者が自宅避難を余儀なくされた可能性も考えられるとのことでした。

高梁市は早々に復興推進課を立ち上げ10年計画にて発展させていく計画で、「夢をもって住み続けられるまち」をコンセプトに、3年の復旧期、4年の復興期、3年の発展期をもって発展させる目標を見て、もし豊明市が被災した際も、事前に目標を立てることにより速やかに対応ができるのではないかと感じました。

高梁市では、災害後は防災ラジオを無料にて各家庭に配布しており、ポケベル周波にて災害時に情報を発信していたようですが、町内放送機器が届かない地域や、孤立した地域等には、避難勧告が行き届くよう、そういった端末などの配布するのも考慮すべきだと感じました。

そして、高梁市の皆さま、ありがとうございました。

会派視察報告画像集



岡山県高梁市

2019年7月30日

ガンバレ

令和元年8月7日

会派視察報告書

日時 令和元年7月31日

場所 広島県 呉市

2日目

目的：国民健康保険事業の医療の適正化について、全国でも高齢化の比率が高く、

1人当たりの医療費が高い市に視察

特に「糖尿病性腎症等重症化予防事業」を中心にご教示

日時：令和元年7月31日 9：20～11：40

場所；会議室

内容；

広島県広島市の東南に位置し古くから造船の町として発展してきました。北は山々に囲まれ、南は瀬戸内の海に面しています。カキの生産は全国2位です。人口223685人、高齢化率34.8%で市内には大規模病院が3施設あり全国有数の高齢者比率となっており、国民健康保険加入者は42842人で全体の19%で1人当たりの医療費は昨年、459000円（国の平均値の1.28倍）と高額でした。今後、豊明市も徐々に高齢化が進んでくると思いますので、健康管理増進プログラムシステムを運用した医療費適正化の取り組みをしている呉市を視察してきました。

質問内容：

- ①プログラム参加者について
- ②事業に係る費用について
- ③連携システムの概要と各機関の役割分担について
- ④事業実施に向けての課題や問題点について、また、その克服された実績について
- ⑤事業効果（医療費の減少）について

高齢者比率の高い市から他にも多くの貴重な回答を頂きました。

まとめ：



高齢者が増えていく中、保険料の適正化を行うには医師会・薬剤師会と連携しジェネリック医薬品の利用促進を進めてもらう。ハガキにてジェネリック医薬品使用販促通知を送るだけでなく処方薬局の窓口においても勧奨説明をするとかなりの費用対効果が期待できる。システムの運用は経費削減のため、業者への委託はせず、市の職員で行う。

特定検診対象者のうち重症化予防プログラム対象者、健康診査未受診者などを抽出し電話などにより特定健診受診勧奨をすること。要医療者を対象に検診後、病院にかからず放置している人を訪問指導により再受診を促し、予防プログラムへの参加を勧奨することにより重症化を予防する。保険指導員の訪問活動により医療相談を進めていく。

本市においても、是非とも取り組んで行きたいと思います。

新築間もない、新しい市役所で各所の最新設備に驚きました。

